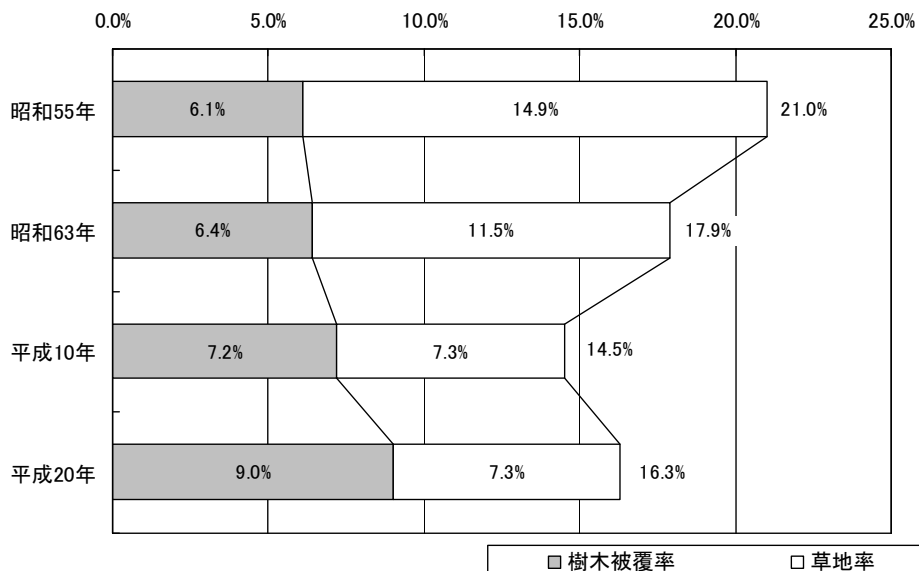


葛飾区が進める界わい緑化

1. 緑の現況

1) 緑被率の推移

昭和 55 年調査からの緑被率の推移は下図に示すとおりです。直近の調査は平成 20 年です。



2) 直近の地区別の緑被状況

地区別の緑被状況を下に示します。

水元地区の緑被率が最も高く 29.8%で、次いで金町・新宿地区が 20.1%、柴又・高砂地区が 16.4%でした。

水元地区は樹木被覆面積、農地面積が他地区に比較して非常に大きくなっています。金町・新宿地区は草地面積が 7 地区中最も大きく、南綾瀬・お花茶屋・堀切地区は屋上緑化面積が最も大きくなっています。

地域	面積 (ha)	緑被 (㎡)	緑被				緑被率 (%)
			樹木被覆地	草地	農地	屋上緑化	
水元	539.2	1,604,934	922,647	418,745	260,726	2,816	29.8
金町・新宿	497.0	997,292	441,378	533,645	20,611	1,658	20.1
柴又・高砂	499.1	816,254	395,389	355,541	64,634	690	16.4
亀有・青戸	355.0	421,747	354,543	63,200	429	3,575	11.9
南綾瀬・お花茶屋・堀切	549.8	779,828	411,104	330,155	2,533	36,036	14.2
立石・四つ木	477.9	455,953	219,345	230,483	4,650	1,475	9.5
奥戸・新小岩	565.9	605,862	343,076	227,312	34,289	1,185	10.7
区全域	3484.0	5,681,870	3,087,482	2,159,081	387,872	47,435	16.3

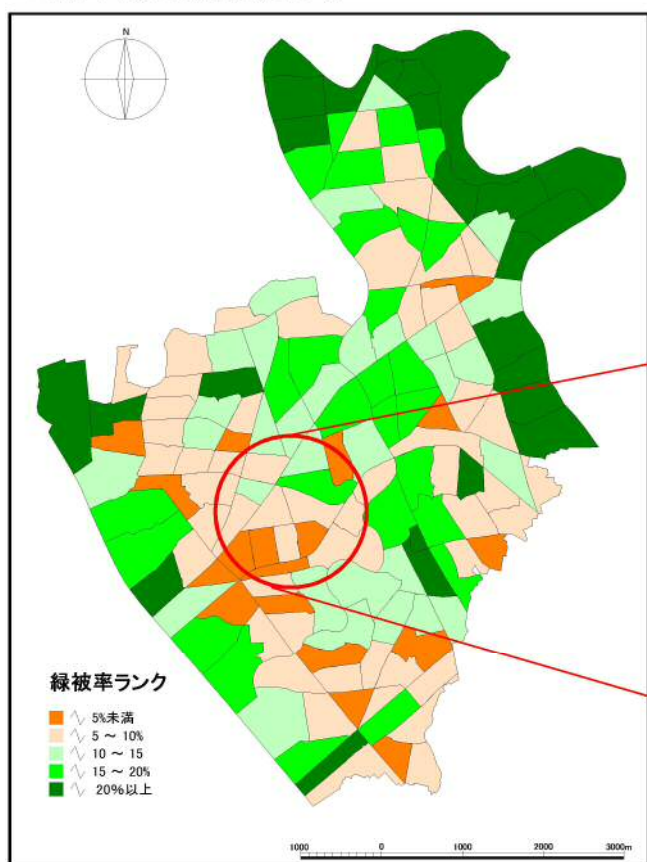
2. 界わい緑化対象エリア（モデル地区）

区役所を中心とした半径 1 km の範囲を界わい緑化対象エリアとしました。

このエリアの直近の地区別の緑被率は、亀有・青戸地区 11.9%、南綾瀬・お花茶屋・堀切地区 14.2%、立石・四つ木地区 9.5% となっていて、いずれも区全域の緑被率を下回っています。町丁目別の緑被率で 15% を超えているのは青戸三丁目の 15.1% だけです。

当該地域は住宅地区であり、地区別の緑被状況調査でも他地区に比べ緑被率が低い傾向にあるため、界わい緑化推進プログラムを実施します。

町丁目別の緑被ランク



界わい緑化対象エリア

